

作品 No.240



生きものの“つぶやき”:

「そういえば何だかこの頃遠くが見えなくなったね。」

エッセイ:

研究の一環で都内にある干潟を訪れた際に、皆が同じ方向を向いているのが可愛くて面白いと感じ、何気なく撮った写真。ところが、渡り鳥がここに帰ってくる途中で目の前に広がるコンテナが、干潟の位置が特定出来ず彼らを道に迷わせてしまうというお話を現地スタッフから聞きました。そこで、彼らは近くに集まって休憩しつつも、かつての景観の阻害と人間の一方的な行動に対してもの悲しさを嘆きあっていたのではと考えたのです。本来は生き物同士助け合って共存すべきだと思います。お互いを思いやろうとする意識こそがまず必要だと感じました！（253字）

生きものの紹介:

黒く見える鳥はカワウ。「鶉」の仲間、長距離の渡り鳥ではないが季節によって水域を変え移動する。全長 81 c m位の大型の水鳥。群れでコロニー「集団営巣場」を作る。体が重いので飛ぶときに助走が必要なのと、足の指に水かきが付いていて長く潜ってられる「潜水名人」なのが主な特徴。羽を広げる姿がよく見られるが、潜水で濡れた羽を乾かしている。

撮影場所・日時:

東京都大田区野鳥公園・2019年8月11日

応募者の自己紹介:

1. 川本絵里佳／東京学芸大学附属高等学校1年
2. 所属：硬式テニス部
3. 将来の夢：研究職（理系）

審査委員会からのコメント

山積みコンテナが渡り鳥を迷わせてしまうという、あまり知られていない形の環境破壊を知らせる秀逸な作品。『コンテナで迷ってしまう渡り鳥たち』が、『コンテナの上を飛ぶ迷わない飛行機』を眺めている構図も対比となっていて素晴らしい。